

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 2号館 )

事業所番号	0270600356		
法人名	有限会社 十和田だいち		
事業所名	グループホーム はなは		
所在地	青森県十和田市大字藤島字中道52-1		
自己評価作成日	平成20年 7月 20日	評価結果市町村受理日	平成 22年 11月 16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、ご家族様が、特に不安を感じている医療面に於いては、運営者は主治医でもありほぼ毎日訪問され利用者の健康管理、かつ24時間体制で連携が取れている事で安心して生活出来ている。又地域の方には、運営推進会議を通してグループホームへの理解を頂き、災害時の協力体制や日常的な関わりも増し、年々交流が深まっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)  
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	<a href="http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270600356&amp;SCD=320">http://www.aokaigojyouho.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0270600356&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成 22年 9月 7日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>入居者が、より地域の中で、その人らしく暮らし続けられ心安らかに生活を送れることを第一に考え、基本方針に挙げている「地域社会との交流を深め、地域に貢献し愛される家」と、基本理念の「心が癒され安らぎのある家庭的な家」を基に、職員一丸となっている。また、毎日の申し送りや毎月のミーティングに於いて理念を確認し実践に向けて、目指す方向の位置づけをし、日々のケアを行っている。</p>		
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>町内会の一員とし、総会で「はなは」またはグループホームの役割について説明し、認知症についても何か相談したいことがある時は、いつでも応じられる事をお話したり地区消防協力員の緊急連絡の援助、地域の盆踊り、運動会、秋祭り等積極的に声を掛けて頂き、交流を深めている。また、散歩がてら栗拾いやブルーベリー狩り等も楽しむ場を設けて頂いている。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>町内会の総会に参加し、グループホームの役割や認知症についての説明を行い、いつでも相談に応じられる事をお話している。また高校の福祉施設実習の受け入れも行っている。</p>		
4	(3)	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催し、その中でサービスの取り組み状況、報告及び課題等を挙げ、委員から意見を伺い、サービスの中に組み入れ、サービスの向上に活かしている。委員の中には、自らの慰問計画を熱心に考えて下さる方もいます。今年度からは会議出席されなかった家族皆様には、会議内容、資料を説明、報告している。</p>		
5	(4)	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>今年度は、毎回市担当者が運営推進会議に出席して下さる事により、相互に連携を図り出席している地区の方々からの質問や私達の分からない点についても丁寧に回答下さっている。また、年1回自己評価、外部評価結果も報告し、はなはの事を理解して頂く様努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	基準厳守は勿論の事、その人に合ったケアを行い安心して生活出来る様職員全員で話し合い、助け合い「身体拘束をしない」と言う意思統一を明確にしている。また、日中は鍵を掛けない様入居者様一人ひとりの行動を把握し、事前対応し回避に努めているが、その時の状況によっては安全性を考慮し家族の理解、同意の上施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修に於いて勉強会を行い、オーダメドケアの視点からセンター方式を活用した個々のケアを行い職員はしない、させない事を当たり前の事として実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現在、権利擁護事業を利用されている方が1名、成年後見制度を利用されている方が1名おられ、勉強会も行っており分からない所がある時は分かる迄周知徹底に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や見学時は、重要事項説明書や契約書を分かり易く説明し納得した上で契約を行っている。また退去後の支援やその後の相談にも応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からコミュニケーションを多く取ったり、環境作りを大切にし、入居者様の声に耳を傾け、表情の変化で思い、不満を感じとり早期発見に努めている。出された不満は入居者様個々に添った改善となる様、職員で共有している。面会時には、時間を設け、本人の状況や生活の様子等を伝えたりし、その中から汲み取ったり、言ってもらえる関係を大切にし、相互の信頼関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の事を一番に理解しているのは自分達職員であるという認識を持ち、折に触れ職員と話しをする機会を多く持つようになっている。異動の際も3ユニット間での交流は、日頃、行事等を通じて馴染みの関係であり、入居者に混乱もなくて、スムーズに引き継がれている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は、職員の休みの希望はほぼ受け入れて下さったり、働きやすい環境または個々のヒアリングを行い相談に応じる等仕事に対する意欲が継続出来る様配慮下さっている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者のバックアップのもと、年間研修計画を作成し勤務調整を図りながら外部研修に参加出来る様にしている。研修後は報告書作成し各研修事項にのった研修を行っている。また職員は毎日が勉強と思い日々自己啓発に努めると共に、新入社時含め規定を重んじ、介護職としての職務に十分自覚を持つ事を意識付けしている。			
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入し、様々な研修に参加する事で相談、情報交換、交流ができ、その情報を職員で共有しスキルアップやサービスの質の向上に反映されている。また、他のグループホームとの交流を通じ、入居者様は楽しまれ気分転換となっている。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の際には、本人、家族の言葉を傾聴し、希望、困り事等常に思いを深く汲み取り、十分な時間を掛け話し合い、理解、受け止めながら信頼関係を築き、安心して利用出来るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談で、家族の話を十分に聴き、本人を取り巻く環境について把握し、ホームでの生活を想定し、これからの生活について説明し、新しい生活に向けて取り組む必要のある事柄について予め検討し、出来る限り家族の不安が和らぐ様に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から十分に話しを聴き、十分に検討した上で必要としている支援の優先順位を見極め、適切なサービスに繋げられる様にケアマネージャー、各関係機関とも相談しながら利用出来る様支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員は、生活の中で食事準備、掃除、洗濯畳み、趣味活動等様々な共同生活を通じて、お互いに助け合い、個々の考え、能力、価値観に触れる事で、お互い学び合い経験を積み上げながら個々の士気を高め合っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力の基、共に考え支えあう姿勢を大切にし、連携を密にし信頼関係の構築を図りケアの場面に役立てている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今迄育んできた人間関係、生活を尊重し、こだわりの場所、交友関係、環境が可能な限り継続出来、希望が叶う様、家族との協力や職員の代行により連絡、調整を行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい環境になじめる様、新しい生活へのアドバイスを行い、問題解決に向けて入居者様一人ひとりが、共に助け合い、協力し合う雰囲気大切にし、家族の一員と意識付け、関係が円滑に保たれる様、職員注意を払い見守り、配慮している。また、孤立しない様、トラブルとならない様間に入ったり、場面作りのサポートしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今日迄の入居者様家族との出会いや関わりを大切にし、新しい環境に馴染める様、生活へのアドバイスや家族了承の上情報を伝え、入居者様が環境変化に混乱しない様に行っている。また、気軽に相談、連絡可能な旨もお伝えし時間の許す限り足を運んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から入居者様に希望を伺い、出来る限り希望を取り入れる様努めている。困難な場合は、家族からアドバイスや日頃からの入居者様の言葉、表情等の観察から、職員間で検討し、常に本人の視点に立って把握出来る様にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃から入居者の様子を観察、コミュニケーションを図る機会を多くする事で今迄の生活に関する情報を収集したり、センター方式を活用し、家族や関係機関の情報提供を整理し、最良の支援にいかせる様、状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子や言葉、エピソード、健康状態等記録、申し送りする事で1日の過ごし方を細かいところから総合的に把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様がより良く暮らして頂く為、MMSE方式を含めた介護計画を作成し、介護計画サービス内容に添った実施表により評価を確実にし、次の計画に役立てている。また入居者様の言葉、様子、家族からの情報は、職員間の話し合いの中に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子、介護計画に添った内容を中心に、ケアの実践、結果、気づきや工夫等を毎日個別に記録し、職員間で情報を共有している。また、入居者の様子や変化等の早期発見に努めると同時に、実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々が2ヶ月に1回の運営推進会議に出席して下さり、グループホームで果たすべき役割を理解して頂いている。今年度は災害時等で協力して頂ける方の名簿を頂き、緊急連絡網に載せる事が出来安心した生活を送る事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の系列であり、主治医、運営者は毎朝訪れ、入居者一人ひとりに熱心に対応され、少しの体調変化も見逃さず、受診や心配事にも相談頂き、深く認知症状を把握しておられる。また入居前からの眼科、皮膚科の医療機関で関係性のある一人ひとりの掛かり付け医を家族から伺ったり、協力病院と連携を密にし、家族の協力のもと行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤で看護師を配置し、日常の健康管理や職員との情報を共有しケアとの協働を図っている。また24時間連絡が取れる体制であり主治医との連携を図りながら入居者様の状況に応じて対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による環境変化に加え、身体機能の低下と認知症の進行予防の為、治療が終了した時点で出来る限り早く退院出来る様に、退院の時期や退院後の留意点について医療関係者に伺い、家族と一体となり受け入れを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	「医療連携体制」「看取りに関する指針」を整備しており、必要に応じて家族、主治医、本人、職員で看取りに関して話し合いを行う事を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、事故発生時の対応マニュアルを整備し冷静沈着に対応出来る様研修を行っている。また看護師からの急変時の対応について講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルを作成し、昼夜想定総合訓練を年2回行い終了後はマニュアルに添った検討会を実施している。地区消防協力員の支援体制も確保されたり、地域の総会に出向き協力をお願いや、ホームでもいつでも地域の皆様に協力出来る事を話し相互の関係が順応し、非常用物品も準備している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩、経験者として、個人を尊重、重んじ、その人らしい生き方を支える事を念頭に置き、入居者様の意向、羞恥心に配慮しながら、声掛け、接遇に留意し、職員は個人情報や守秘義務の取り扱いに関しても周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々快適に、かつその人らしい生活を送れる様、コミュニケーションや日常生活の場面の中から本人の希望や思いを引き出し、選択、自己決定に導ける様日々の声掛けを工夫し最良の支援に向け取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のその日の状態に合わせて、個々の活動や希望等を尊重し、生活スタイル、ペースを確保、維持し、安らいで頂く様支援している。また、決して無理強いしない事も職員確認し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好み、希望を尊重し、行き先、四季に合わせたおしゃれが出来る様支援し、散髪や毛染めは、馴染みの店を使っており、身だしなみを気にする事でその人らしさを失わない様にしている。不定期ではあるがメイクボランティアの慰問を受け、気分転換されている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立はもちろんの事、誕生食、伝統食等に関しても、入居者様または、個々の好み、希望を組み入れ、買い物、食材加工、後片づけ等を一緒に行っている。また、近隣で採って来た旬の山菜、野菜も一緒に下ごしらえし、楽しみのある食事となる様、工夫している。さりげない食べこぼしも配慮している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量、水分摂取量は、記録、確認を日々行い、必要量確保出来る様、食べやすさ、飲みやすさ、嗜好、栄養バランス、タイミング、食器等の工夫や毎食前には、嚥下運動をしたりと、個々の状態に応じた工夫の支援を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力を活かし、毎食後の歯磨き、義歯洗浄、消毒、口腔内の観察等個々の状態により、支援している。また、異常の早期発見に努め、予防を含め、協力歯科医の受診や指示を仰いでいる。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを排泄記録表等を活用し、職員が把握している。入居者様のサインを見逃さず事前誘導やプライバシーに配慮した声掛けや誘導をし、状態に合わせ昼夜使い分けし自立して排泄出来る様取り組んでいる。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	安易に薬の支援に頼らぬ様、個々の健康状態、排泄、水分量確認表を活用し水分、乳製品、体操、歩行練習、腹部マッサージ等工夫支援に取り組み、主治医、看護師からの助言、指導を基に自然排便出来る様にしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の入浴習慣や好みを把握し、入居者様の意向に添い、ゆっくり楽しむ事が出来る様支援している。毎日の入浴、足浴が日課となっている。洗られたり、断りが続く場合でも少しでも早く入浴いただける様声掛けのタイミング等工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣やその日の状態を見極め、日中は手伝いや趣味、軽体操を行い適度に体を動かし生活リズムを整えたり、季節に合わせ安楽に休める様な布団の調整を行っている。不安や心配事で休めない入居者様には話を聴いたり、お茶等を提供し、安心して頂く様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、入居者様の内服、内容を理解すると共に誤薬、飲み忘れ防止の為、個別プレートに入居者様名、薬の効果、効能等、細部に渡り明記し、チェック体制も多重に強化している。状態変化、内容、用量に変化見られたときは、受診、薬剤師の指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様個々の生活歴、習慣、趣味等を把握し、職員と一緒に調理、掃除、趣味の製作等を通し、共に喜んだり、力の発揮出来る場面作りを大切に、日常生活に組み入れている。また、個々の嗜好品を把握し、本人の好みの物で楽しく、美味しく食べて頂く為、状態に合わせて支援し、極力時間を設け外食の機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や個々の状態を把握し、日常的に近隣への散歩、山菜採り、買い物等希望に添う様外出の機会作りを設けたり、東屋、河川敷で日光浴、バーベキューを楽しむ、気分転換を図っている。また、季節毎の全館、各館の年間行事計画を作成し、家族と相談、同意の上、普段行けない場所への外出の支援もしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様個々の希望、力量、楽しみ、安心の為家族同意の基、自己管理している方もいますが出来ない方も出来るだけ、機会ある毎に金銭の出し入れを行って頂いたり、好みの選択してもらうことを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙のやりとりは、気兼ねなく自由に出来る様に、状態により居室へ運んだり、席を空けたりしている。手紙、絵ハガキ、小包等一緒に楽しみ、わかち合いながら支援し、大切な関係がとぎれない様にも配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作り作品や小物類で飾ったり、花々、木々、置物にも配慮し、季節、毎月の変化を楽しむ工夫や居心地の良い空間作りにも留意すると共に不快な音、光へも迅速に対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場として館内には、ソファ、テーブルがあり気の合う入居者様同士がいつも楽しく会話されたり、趣味の製作等思い思いに過ごされたり、外の中庭には東屋、ベンチが備えてあり他館の入居者様との憩いの場となっている。また事務所、和室等も開放しその時々思いにより過ごす場所の確保となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族、入居者様と相談し、以前から使いた品、思い出のある品、大切な品を持ち込んで頂いたり、手作り作品と一緒に飾ったりしている。また中庭や散歩で摘んできた花を生けたりし和んで頂ける空間、場となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の混乱や失敗について観察し、何が要因となっているのかを検討、話し合い速やかに対応している。改善見られない時は、随時検討し安心した生活が出来よう様取り組んでいる。		